

“日本画像学会誌原稿執筆要項”

(2020年10月01日改訂)

一般社団法人日本画像学会 編集委員会

目次

1. 投稿形式

- 1.1 標題, 著者名, 著者所属 (原稿1枚目)
- 1.2 要旨 (原稿2枚目)
- 1.3 本文 (原稿3枚目以降)

2. 本文の書き方

- 2.1 論文のタイトル
- 2.2 本文の章立ておよび見出し
- 2.3 文字とかな使い
- 2.4 物理的な量と単位との関係
- 2.5 数字, 数量, 量記号, 演算記号および元素記号とフォント
- 2.6 学術用語
- 2.7 数値・数式の表記
- 2.8 単位記号と物理量の表示方法
- 2.9 カタカナ, 略語・略記号
- 2.10 引用の仕方と脚注
- 2.11 商標の扱いについて
- 2.12 その他 (主に体裁面)

3. 図面・表の書き方

- 3.1 図面の書き方
- 3.2 表の書き方

4. 参考文献の書き方

- 4.1 学術雑誌および学術的雑誌 (学会誌, 研究紀要・技報, 論文集, 技術報告書, ほか) などの印刷雑誌
- 4.2 電子ジャーナル
- 4.3 プレプリント
- 4.4 単行本などの出版物
- 4.5 単行本の一部 (論文, ほか)
- 4.6 学術会議予稿集 (論文集) など
- 4.7 特許
- 4.8 規格文書
- 4.9 ウェブサイトなどの電子情報

5. 著者略歴

6. 投稿方法

7. 修正原稿の再提出の方法

8. 掲載可となった後の編集工程

9. 掲載料と論文別刷り代金

付録 1: 英文における各種記号およびその入力方法

付録 2: べき乗の接頭語およびギリシア文字一覧表

“日本画像学会誌原稿執筆要項”

(2020年10月01日改訂)

一般社団法人日本画像学会 編集委員会

1. 投稿形式

投稿原稿は、Microsoft Word (MS-Word) にて作成する。専用のテンプレートが用意してあるので、利用されたい*。
なお、MS-Word 原稿は投稿の際に自動的に PDF ファイルに変換される。

* http://www.isj-imaging.org/ISJ_journal/e-submission.html 参照。

1.1 標題、著者名、著者所属（原稿1枚目）

原稿1枚目には、原稿種別（丸で囲む）、題名（日英）、著者氏名（日英）、著者所属・住所（日英）を記載する。
また、校正刷りの最終確認を行う著者の氏名および連絡先を記載する。

1.2 要旨（原稿2枚目）

原稿2枚目には、日本語要旨（論文・解説記事では300～450字、ショートノートおよび研究速報では約300字）、日本語キーワード約5単語、英文要旨（論文・解説記事では100-150 words、ショートノートおよび研究速報では約100 words）、および英文キーワード約5 words を記載する。なお、2単語以上で構成されるキーワードは、そのかたまりを一つの単語として取り扱う。

1.3 本文（原稿3枚目以降）

本文は1段組みで記載し、編集可能な1) 本文テキストと2) 図および3) 表からなる構成とする。全体の頁数は論文の場合は刷上りが10頁以内とする。ノートは刷上り2頁以内とし、速報は刷上り4頁以内とする。

2. 本文の書き方

2.1 論文のタイトルなど：

論文のタイトルについては、以下の通りに記載する。

- (1) 和文タイトルでサブタイトルがある場合は、本タイトルに対して改行して両サイドに全角ダッシュ“ー”を付記し、本タイトル・サブタイトル、共にセンタリングを行う。
- (2) 英文タイトルは見出しスタイル (headline capitalization style) に従い、それぞれの単語の先頭を大文字としてセンタリングを行う。サブタイトルがある場合は、改行して両サイドにエムダッシュ*1 (em dash) “—”を付記してセンタリングを行う。
- (3) 英文著者名はフルネームで全員を記入し、「半角コンマ+半角スペース」(,) で区切る。ファーストネームは最初の文字のみを大文字とし、続いて半角スペースを空けて、ファミリーネームを全文字大文字で記載する。

(例) Koji TANAKA

- (4) 複数の執筆者の英文表記では、“○, ◆, and △”のように、最終著者の前に“コンマ”に続けて“and”を挿入する。ただし、2人の場合には、“○ and ◆”のように“コンマ”は入れない。
- (5) 著者によって所属・住所が異なる場合は名前の後ろに上付数字を付し区別する（日本語著者名欄はコンマの前、英語著者名欄は半角コンマの後ろ）。
- (6) 代表著者 (corresponding author) には、名前の後ろ（所属を示す上付数字の前）にアスタリスクを付す。

2.2 本文の章立ておよび見出し：

本文の章立て構成の仕方は、以下の通りに記載する。

(1) 章立ての構成：

- ・章の表し方：1. ○○
- ・節の表し方：1.1 ○○
- ・項の表し方：1.1.1 ○○
- ・節以下の段落表現は、(1), (2), または (a), (b) などを適宜用いることができる。
ただし、① (丸付き文字), VI (全角のローマ数字) などの文字 (機種依存文字) は用いない。

例) 1. 序論 (はじめに)

2. 理論とモデル化

3. 実験

3.1 装置

(1) 測定装置

(2) 評価装置

3.2 方法

*1 エムダッシュ：特殊記号の入力については、本執筆要項末尾の付録1を参照のこと

- 4. 結果と考察
- 5. 結論（おわりに）
- 謝辞
- 参考文献
- 付録

(2) 見出し：

- ・章，節，項などの見出し語は用いないで，見出し番号で表す．また，本文中でそれらを引用するときもその見出し番号で表す．

2.3 文字とかな使い：

- (1) 本文の文章は当用漢字現代かなづかい（ひらがな）を用い，口語体で簡明に書く．なお，本学会は異なる専門分野の会員の集まりであることに留意して用語，記述が著しく専門的にならぬように配慮する．また，①（丸付き文字），㊦，Ⅵ（全角のローマ数字）などの文字（機種依存文字）はできるだけ用いない．
- (2) 英文要旨（Abstract）と図・表・写真内の文字および説明は英文で記載する．
- (3) 外国語は和文原稿においては基本的にカタカナで記載する．ただし，外国語の地名，人名，外国語書籍名，などは原則として原語（できるだけ英語）で記載する．原語が英語でない場合は，原語（例えば，ドイツ語，フランス語，ラテン語など）は，大文字・小文字を含めて忠実に記載し，英語以外の外国語であることを示すために，イタリック体にて記載する．ただし，常用的に用いられるラテン語（例えば，e.g., et al., in situ, vice versa, cf., i.e. など）については，ローマン体とすることができる．この場合，本文中では表記を統一すること（混在は避ける）．英文原稿の場合も上記と同様の扱いとする．
- (4) 和文本文は原則として MS 明朝体で記載し，Abstract，本文および参考文献の英文は原則として Times New Roman フォントを用いる．図表中の文字フォントは Arial を推奨する．

2.4 物理的な量と単位との関係：

- (1) 物理的な量は，基準となる測定単位と，それと比較した大きさ（数値）との二つの部分から構成された量である．この物理量は，物理的な名前〔名称：例えば，長さ（length），時間（time, duration），質量（mass）など〕か，それを定義した物理量記号（例えば， l , t , m など）のいずれかで記載する．一方，測定単位についても単位の名前〔名称：例えば，メートル（meter），秒（second），キログラム（kilogram）など〕，またはその単位記号（例えば，m, s, kg）のいずれかで記載する．
- (2) その物理量記号については，本文中で最初に出てきた箇所ですべて必ず定義しなければならない．その際，単位記号の表示に関しては，
 - (a) 特定の単位によらない物理量を表現する量方程式の場合には単位記号は表示しない．
 - (b) 一方，実験式のように，特定の単位での数値を表現する場合（数値方程式など）には，適用単位記号を明記する．特に，7つの SI 基本単位記号（m, kg, s, A, K, mol, cd）以外を使用する場合（接頭語も含めて）には，必ず単位記号を明記しなければならない．
- (3) 本文中では単位の名前（名称）あるいは単位記号のいずれかを使用しても良いが，論文内ではどちらかに統一すること．
- (4) 図・表中では単位記号の使用が望ましい．

2.5 数字，数量，量記号，演算記号および元素記号とフォント：

- (1) 数量を表す数字：
 - (a) 数量を表す場合は半角アラビア数字（1, 2, 3 など）を用いる．
ただし，漢字またはひらがなと結合した数字は漢数字で表す（固有の専用用語，慣用語）．
（例）単一反応，二重結合，三角形，不均一，二義的，四捨五入，一つ，二つ，二三の，など
 - (b) ローマ数字は原則として序数を強調するような事例番号（たとえば“実験Ⅰ”）あるいは慣用表現（たとえば“Type II Error”，“エリザベスⅡ世”）などの記述のみに用いる．
 - (c) 英文で記載する Abstract や参考文献では，原則的に 9 以下の数および序数にアラビア数字は使わず，文字を略さず言葉で記す．
（例）one, two, three, ---, nine, 序数：first, second, third, fourth, -----, ninth
- (2) 数量を表す文字（量記号）：
 - (a) 数量を表す文字（量記号）の構成とフォント：
 - (i) 量記号はローマ字またはギリシア文字のアルファベット 1 文字（主文字：大文字あるいは小文字は問わない）か，これに上付きまたは下付き（あるいは両方付き）添え字（副文字あるいは数字）を付けて固有の意味を持たせて構成した複合文字である．さらに場合に応じて上記記号の直後に（ ）付きで状態を示す場合もある（たとえば， $I_{BE(sat)}$ ：ベース・エミッター間の飽和状態での電圧を表す）．

なお、輸送現象に関する文字変数では、2文字で構成された量記号もある（たとえば、レイノルズ数 Re 、など）。

- (ii) アルファベット 1 文字は変数であるので、アルファベット 1 文字は常にイタリック体（斜体）とする。

輸送現象に関する 2 文字変数は 2 文字ともイタリック体で示す。

- (iii) 添え字はそれが物理量や化学量および順序を示す文字の場合はイタリック体とする。その他の場合の添え字（文字およびアラビア数字）は、ローマン体（立体）とする。

- (b) 慣用的な量記号：

- (i) JIS Z8000 規格群に分野毎（一般、空間および時間、力学、熱力学、電磁気学、光、音）に記載されているので、これを参考に各種量記号を定義する。主要なものを抜き出し別紙の付録 3 としてまとめた。必要に応じて参照されたい。なお、量記号が単位記号と誤解を生じるような場合は、量記号に適宜添え字を用いるなど注意を要する（例えば、印加電圧 V_m など）。

- (c) 量記号の種類とフォント：

- (i) 座標軸 x, y, z 、結晶軸 a, b, c （格子定数として用いるとき）も量記号変数であるので、イタリック体とする。

- (ii) ベクトル・行列・テンソルの量記号が定数の場合はボールド・ローマン体とするが、変数を表す時はボールド・イタリック体とする。テンソルの場合はさらにサンセリフ（ひげのない）体とする。ベクトルおよび行列の場合は Times New Roman フォントを、テンソルの場合は Segoe UI フォントを推奨する（例えば、ベクトル・行列の変数の場合 “ \mathbf{A} ”，テンソルの変数の場合は “ \mathbf{T} ”）。

- (iii) ベクトルの絶対値を表す場合は、普通のイタリック体を用いる（たとえば “ \mathbf{A} ”）。

- (iv) 要素 A_{ij} からなる行列は “ \mathbf{A} ” のようにボールド・イタリック体で記載し、正方行列 “ \mathbf{A} ” の行列式の記号は “ $\det \mathbf{A}$ ” または “ $|\mathbf{A}|$ ” で表す。

- (d) 物理定数や数学定数とフォント：

- (i) 物理定数（光速 c 、プランク定数 h 、ボルツマン定数 k_B 、電気素量 e 、アボガドロ定数 N_A 、気体定数 R など）は定数とされているが、測定によって求められる量であるので、量記号としてイタリック体を用いる。

- (ii) 数学定数（円周率 π 、自然対数の底であるネイピア数 e 、虚数単位 i など）は変数でないため、ローマン体とする。

- (3) 演算記号（たとえば、四則演算記号、三角関数記号、微分記号、対数関数記号など）はローマン体を用いる。これらの演算記号の文字あるいは文字列は、常に全て小文字にて記載する。

- (4) 元素記号（たとえば、水素 H、金 Au など）はローマン体とする。

詳細は「2.8 単位記号と物理量の表示法」を参照のこと。

2.6 学術用語：

- (1) 学術用語は原則として“画像技術用語集”（日本画像学会編、改訂版 2015.1.16）に従う。

<http://isjglossary.main.jp/>

- (2) 上記“画像技術用語集”にない場合は、文部科学省編の「学術用語集」に従う。

- ・物理学編（増訂版、日本物理学会編、培風館）
- ・機械工学編（日本機械学会）
- ・電気工学編（増訂 2 版、電気学会）
- ・化学編（増訂 2 版、日本化学会）、など

- (3) 日本語として一般的に用いられていない学術用語や物質名は、カタカナ表記で（ ）内にフルスペルで英語を記載する。（例）エナンチオ選択的（*enantioselective*）発光

- (4) 有機化合物〔高分子（樹脂）を含む〕および無機化合物などの命名法や構造式の記載方法は、国際純正・応用化学連合（International Union of Pure and Applied Chemistry, IUPAC）が定めた IUPAC 命名法に従う。

なお、学術用語とまぎらわしい登録商標名（たとえばコピー（ヤ）、リコピー、ゼロックス、など）は、日本語名、欧文語名ともに学術用語としては使用しないように注意する。

2.7 数値・数式の表記：

- (1) 数字の位取り表示は、“0.328”，“16 584.987 655”，“6584”，“ 1.6720×10^2 ” のように記載する。

- (a) 小数点の前に必ず“0”をつける。

- (b) 小数点を起点にして、前後 5 桁以上の数値については、起点から 3 桁目毎に半角スペースを入れて区切っても良い（この方が見やすくなる*3）。

*3 3 桁毎の区切りにコンマ（,）を入れる表記は避ける。フランス語のようにコンマ（,）を小数点とする言語もあり、

- (c) 小数点の前 4 桁の場合は半角スペースを設けない。(例) 1917 (4 桁) 12 345 (5 桁)
- (d) 有効数字の桁数表示に注意する。
- (2) 本文中の該当行に数式を記述する場合は、 x/a , $(a+b)/(c+d)$, $(2/3) \sin(kx)$ のように記載する。
2 段あるいは 3 段のスペースが取れる時は、

$$\frac{x}{a}, \frac{(a+b)}{(c+d)}, \frac{2}{3} \sin(kx)$$
のように記載する。
- (3) 本文中に記載する数式には半角 () で囲んだ通し番号 (式番号) を記載する。
- (4) 長い式を途中で改行する場合は、該当行の最後あるいは次行の先頭に演算記号を付ける。
- (5) 括弧の順序は、{[()]} とする。
- (6) 加減乗除算記号、等号・不等号などの二項演算子を使用する場合は、二項演算子の前後にそれぞれ半角スペースを設ける。ただし、商を示す演算記号であるスラッシュ “/” の場合は例外で、スラッシュの前後に半角スペースは設けない。
- (7) 正符号あるいは負符号などの単項演算子を使用する場合は、単項演算子と数値との間に半角スペースを設けない。
- (8) 数値の範囲を示す場合は和文では 全角の “～” 記号の前後に数値を用い、英文では エヌダッシュ^{*3} (en dash) “-” を用いる。エヌダッシュ記号の前後にはスペースを設けなくて直接数値を置き、単位名称あるいは単位記号を記載する。(例：“5～10 秒”, “5-10 s”。ただし、単位が漢字の場合は、数値と漢字単位との間の半角スペースは無くても良い)。
なお、「角度の単位記号」の場合は例外で、半角スペース無しとなる(例えば, “5～10 度”, “5-10°”)。
- (9) 英文で一部の記号を入力する場合、日本語全角文字を用いてはならない(例: 「℃」)。本執筆要項末尾の付録 1 に注意を要する記号の使い方、入力方法をまとめているので参照されたい。

2.8 単位記号と物理量の表示法：

- (1) 単位記号と表示：
- (a) 単位記号は、JIS Z8000 規格群に規定された SI 単位 (SI との併用を認めている単位を含む) に従う (JIS Z 8000-1: 2014 “量および単位—第 1 部：一般” の「6.5 国際単位系 (SI)」参照)。本規格群より抜きだした記号の一覧を別紙の付録 3 にまとめた。必要に応じて参照されたい。
- SI 基本単位 (m, kg, s, A, K, mol, cd)
 - 固有の名称および記号をもつ SI 組立単位 (Hz, N, Pa, J, W, C, V, F, Ω など)
 - SI と併用される単位 (L, min, h, d, eV など)
 - SI 単位に準じる単位 (% , °C)
- なお、産業技術総合研究所計量標準総合センターのウェブサイト¹に、最新の SI 文書の翻訳版、および量記号および単位記号について IUPAC が定めた文書「物理化学で用いられる量・単位記号」の翻訳版が掲載されている。必要に応じてこれらを参照されたい。
- (b) SI 単位はアメリカ英語の綴りを採用する。
- (c) 単位には「べき乗の接頭語」を直接付与できる。この接頭語には、負のべき乗である分量接頭語 (例えばデシ d, センチ c, ミリ m, マイクロ μ, ナノ n など) と、正のべき乗である倍量接頭語 (例えば、デカ da, ヘクト h, キロ k, メガ M, テラ T, ペタ P など) とがある。これら接頭語以外の文字や記号を単位に付ける事はできない。単位記号には接頭語記号を、単位名には接頭語名を付与する (例えば単位記号では “ns”, 単位名では “ナノ秒” や “nanosecond” など)。接頭語について本執筆要項末尾の付録 2 を参照のこと。
- (d) 単位記号とそれに付記する接頭語は全てローマン体で表す (例えば, cm, nm, km など)。
- (e) 単位記号は人名に由来する単位では人名の 1 文字目のみ大文字にするが、それ以外は全て小文字とする (例えば, A (Ampère アンペア), Hz (Hertz ヘルツ), We (Weber ウェーバー) など)。
- (f) 単位記号にはピリオドや複数を示す “s” は付けない (ただし、単位名の複数形 (英語) は可)。
(例) 5 s, 6 m, 7 seconds, 8 meters
- (g) 単位記号 (m, s, V, Ω など) と 単位名 (名称) (meter, second, volt, ohm など) とを混せて使用しない (例えば, “2.6 meter/s” は誤りで、正しくは, “2.6 m/s”, “2.6 meters per second”, “2.6 メートル毎秒” のいずれかとする)。
- (h) 単位記号や単位名 (名称) には省略形は使わない。特に “s” や秒 (second) の代わりに “sec,” “cm³” や立法センチメートル (cubic centimeter) の代わりに “cc,” “°” および “deg” や角度 (degree) の代

混乱する可能性がある。

^{*3} エヌダッシュ：1/2 長さの長音記号。入力については本執筆要項末尾の付録 1 を参照されたい。

わりに“deg.”(deg にピリオドをつけた表記)などを用いないように注意する。また任意単位“arb. unit”の代わりに“a. u.”を用いてはならない(原子単位系や天文単位と混同する)。

- (i) 時間および角度の単位は、漢字で記載しても良いが、本文中では単位記号か漢字かのいずれかに統一する(min, 分, s, 秒, など)
 - (j) 単位記号の大文字, 小文字に注意する。特に電荷量を示す“C”, 時間の秒を示す“s”, コンダクタンスを表す“S”, 仕事率を表す“W”などは要注意。^{*4}
 - (k) 独自の単位を用いる場合, 最初に使用する箇所にて必ずフルスペルで展開定義すること。
(例) ノズル密度は 360 nozzles per inch (npi) である。
- (2) 単位の積と商:
- (a) 二つ以上の単位の積は, 次のいずれかとする(例: N·m, N m)。
 - (b) 一つの単位を他の単位で除する場合は, 次のいずれかとする(例: m·s⁻¹, m s⁻¹, m/s)。このうち商記号を用いない負のべき乗の二つの形式を推奨する。
- (3) 組立単位記号:
- (a) 各構成単位記号の間に半角スペースを入れて連記する(例: m² kg s⁻²)。これを厳守しないと, “メートル・ニュートン: m N”と“ミリニュートン: mN”が混同される。
- (4) 物理量の表現の仕方:
- (a) 物理量の値は無次元数字と単位記号(接頭語を含めた)との積で表す。このため数値と単位記号との間には, 掛け算を意味する半角スペースを必ず設ける(原則ルール)。
 - (b) SI 単位記号ではないが SI 単位記号と同じ扱いとなった記号に, セルシウス度の記号である“°C”と百分率“%”がある。今後は上記原則ルールに従い, 数値と単位記号との間に半角スペースを設ける(例えば, 36.6 °C や 3.6 %のように)。
・百分率“%”が単位記号扱いとなったので, これに各種の符号を付記する事をせず(例えば, wt%, w/w%, w/v%, v/v%などの表記), 代わりに「質量分率○○%」, 「体積分率▲◆%」などと表記することを推奨する。
 - (c) 一つの数量を表示する場合は一つの単位記号のみで表記する。
(例えば, ℓ = 1 m 25cm と記載することは認められず, ℓ = 1.25 m または 125 cm と記載する)
 - (d) 平面角の度, 分, 秒(°, ', ")の単位記号だけは例外で, 数値と単位記号の間にスペースを入れない。
(例えば, “φ = 12°34'5”のように記載する。ただし, 一つの数量を表示する場合は一つの単位記号のみで表示する方が好ましいので, 例えば“35°24”の場合は“35.40°”と記載する)

2.9 カタカナ, 略語・略記号:

(1) カタカナ:

- (a) 動植物の和文名称はカタカナで記載する。また, 一般に日本語化された外国語, 外国地名, 国名は用法に従ってカタカナで記載する。
- (b) 日本語化された外来語のカタカナ表記は, 「2.6 学術用語」の規定に従う。ただし, 元の英語の語末の -er, -or, -ar などに当たるものは, 原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。なお, 慣用に応じて「ー」を省くことができるが, 論文内では, 各単語については統一すること。
(例) プリンター, プリンタ, コンピューター, コンピュータ

(2) 略語・略記号:

全ての略語(頭字語を含む)は本文の最初に出てきた箇所ですら正式名称を記載し, その後に略語を()を使って定義する。なお, Abstract や日本語要旨で定義しても, 本文で最初に出て来た所で再度定義する。一度略語を定義したら, 論文の最後まで該当の用語は略語を使用する。英文においては本来小文字で記載される英文名称は小文字で, 固有名詞およびそれに類するもの(学術用語, トレードマーク, および芸術作品のタイトルおよび雑誌・新聞名称, など)は大文字にて記載する。略語(頭字語を含む)は大文字で記載する。

- (a) 一般化した略語・略記号および測定法の略語はそのまま使用できる。ただし, 最初に出てきた箇所ですら可能な限り()を付けてフルスペルで記載する(略語は同じでも内容が異なる場合があるので)。
(例) CD (compact disc), UV (ultraviolet) カット,
FT-IR (Fourier-transform infrared spectroscopy) ← Fourier は人名のため頭文字は大文字となる。
SEM (scanning electron microscope, scanning electron microscopy) ← 複数の表記があり要注意。
- (b) 一般化されておらず, かつ本文中で繰り返し現れる略語を用いる時は, 正式和文名称の後に()付きで英文をフルスペルで記載し, コンマ(,)で区切った後, 大文字の略語を記入する。それ以後は

^{*4} 容積を示すリットル(litter)“l”は, 他と混同される恐れがある場合に大文字の“L”を用いても良い。

略語または略記号を単独で使用する。なお、正式和文名称がない場合はカタカナにて表記する。

(例) 円偏光発光 (circularly polarized luminescence, CPL)

フォトルミネセンス (photoluminescence, PL)

2.10 引用の仕方と脚注：

- (1) 図、表の番号は Fig. 1, Table 1 のように記載する。写真は図 (Fig.) に含める。付録に記載の図および表の番号は、Fig. A.1, Table A.1 のように記載する。図表を本文中に引用する場合は、文章の最初に来る場合のみ Figure 1 とフルスペルで記載する。文章の途中あるいは文末に引用する場合は、Fig. 1 のように省略形を用いる。複数の図の引用の場合は、Figs. 1 and 2 のように記載する。
- (2) 式を本文中に引用する場合は、“式 (1)” あるいは “式 (A.1)” のように記載する。
- (3) 参考文献を本文中に引用する場合は、引用箇所の右肩に “1)” のように、“数値)” を上付き文字で記入する。複数の文献を引用する場合、“1-3)”, “4,7,9-11)” のように文献範囲を記載し、括弧で閉じる。
- (4) 脚注を設ける場合は、該当箇所の右肩に “*1)” の様に “アスタリスク+数値)” を上付き文字で記入する。脚注はまとめて、参考文献リストの後に記入する。

なお、本文中の脚注は、論旨を進めていく上で参考になることや本文中に入れると混乱を招く恐れがある事柄の補足説明に用いる。

2.11 商標の扱いについて：

本文中でシステム名や製品名を取り上げる場合には、文末に一言「商標およびトレードマーク、など」について断りを入れる。例えば「本文に記載のシステム名や製品名は、各社の商標あるいは登録商標である」などの主旨の文章を一言記載する。

2.12 その他（主に体裁面）：

- (1) 句読点の扱い：
 - (a) 日本語の文章では、句点は全角のピリオド (.) で、読点は全角のコンマ (,) を用いる。
 - (b) Abstract などの英文文章では、句点は半角のピリオド (.) で、読点も半角のコンマ (,) を用いる。ピリオドおよびコンマの後は半角スペースを設ける。
- (2) 文章の後に () の注釈がある場合の句点の付け方：
 - (a) 文章の最後に () がきて、() 内が参考文献や参照先などの簡単な語句である場合は、() の後にピリオドを付ける。
(例) などの新たな提案がなされている (Fig. 1 参照)。← 論文では主にこちらを用いる。
 - (b) 2つ以上の文章の総括的な注釈、筆署名、クレジットタイトルなどは () の前にピリオドを付ける。
(例) 彼らは高品質なコンテンツ制作で成功を納めた。(編集部 田中緑)
- (3) 箇条書きについて：
 - (a) 番号無しの箇条書きでは、少し大きめの中黒点 (·) を用いる。
 - (b) 番号付きの箇条書きは、両 () 付きで (1), (2) などを用いる。() は半角、数字は半角文字を推奨する。
 - (c) 箇条書きの1項目が複数行にわたる場合、2行目以降も1行目の文字位置に合わせる。

3. 図面・表の書き方

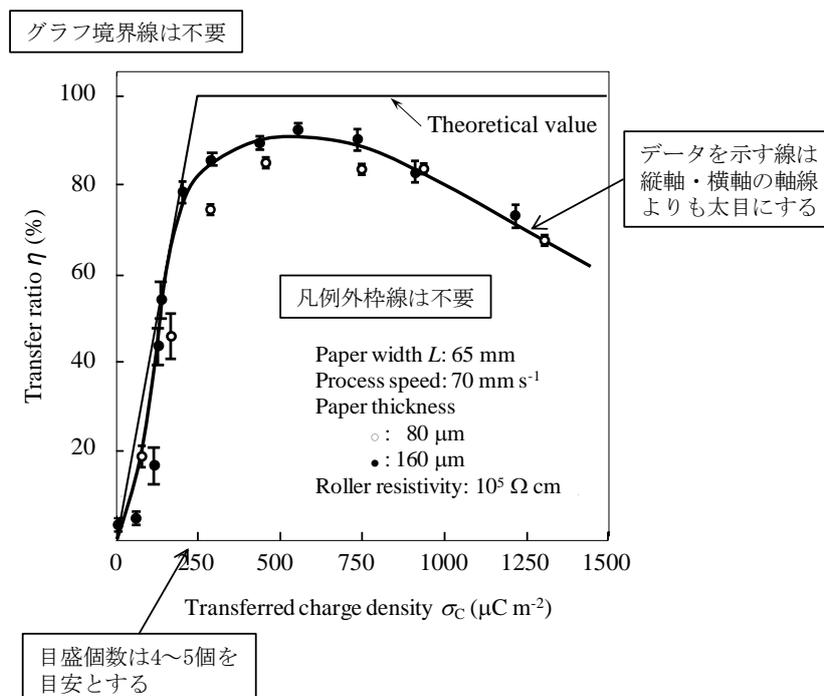
印刷時はカラーを用いることでより理解度が高まる場合を除き、白黒印刷される。グラフ、図において色を使用する際には色相での区別ではなく、明度での区別を考慮して作成する。ただし、ウェブ掲載の PDF 版についてはカラーで掲載される。

3.1 図面の書き方：

以下の注意に従って、対応の図面を本文中に作成する。

- (1) 図面は全て英文とする。アメリカ英語の綴りを採用する。
- (2) 本文中では、Fig. 1 などと記載する。複数の図がある場合は、Fig. 1 (a), 1(b), などと記す。
- (3) 図面中の言葉の説明は、最初のみ大文字とする。(例) Transfer roller, など
- (4) 図の説明文 (タイトルなど) は文章スタイル (sentence capitalization style) に従い、最初の単語の頭文字のみ大文字として本文末にまとめて記載する。なお出版時には、図の下側に掲載される。
(例) Fig. 1 Toner image transfer model.
- (5) グラフ図の体裁については、以下に従う。
 - (a) グラフ図の領域を示す囲い込み線 (グラフ境界線) は削除する。
 - (b) グラフのパラメータ (記号) の説明である凡例を囲む外枠 (凡例外枠線) は削除する。
 - (c) 縦軸・横軸およびそれぞれと対をなす二つの線で構成されるグラフ領域に凡例を入れる。

- (d) グラフ内のデータを示す線は、縦軸・横軸の軸線より太めにする。
- (e) 複数の図のサブタイトルは、原則的には各サブ図の下側に“(a) サブタイトル”の様に記載し、最後にはピリオドを付記しない。
- (f) 縦軸および横軸の目盛個数は4～5個を目安とする。
- (g) 縦軸および横軸の軸ラベルは、共に軸に平行に左から右向き（縦軸の軸ラベルは下から上向き）に記載する。縦軸が左右に二つある場合も、同様に軸に平行に左から右向き（下から上向き）に記載する。
- (h) 縦軸・横軸の軸ラベルの表記は物理量名に続けて半角スペースを開けて量記号を記載し、引き続き半角スペースを開けて半角の()付きで単位記号を記載する。なお、量記号を定義していない場合は、量記号の省略を容認する。単位記号の接頭語に関しては、軸スケールの大きさが0.1～1000の範囲になるように接頭語を選ぶか、べき乗数“10ⁿ”を単位記号の前に置く(例1)。あるいは軸の右端に“×10ⁿ”を記載する。接頭語は基本単位に対して1個となる様に工夫する。
- (例1) “Surface resistivity R (10⁸ Ω cm)” “Surface resistivity (MΩ m)”
- なお、国際単位系 (SI) が提唱している無次元数表記法である「量記号/単位記号」の表記についても、使用することを可とする。理解を容易にするため「物理名称」を付記しても良い(例2)。
- (例2) “ M (A m⁻¹)” “Magnetization, M (A m⁻¹)”
- ただし、論文中では、「物理名称 量記号 (単位記号)」表記あるいは「物理名称, 量記号/単位記号」表記の何れかの表記法にて統一すること。
- (6) 指数関数文字は、“10¹²”のように上付き数字にて標記する。
- (7) 文字と単位記号の間は“半角空ける”。なお、例外ルールとなっていた“°C”および“%”についてもSI単位記号と同じ扱いとなった。
- (例) 10 mm, 10 kg, φ 5 mm, 36.6 °C, 95 %
- (8) 物理量を表わす文字は、ローマ文字またはギリシア文字の1文字(大文字または小文字)としてイタリック体とする(ただし、輸送現象に関する特定変数は2文字も可能)。なお、上付きまたは下付き添え字は原則としてローマン体とする(例1)。ただし、添え字が物理量(関数)または順序を示す文字を表す時はイタリック体とする(例2)。
- (例1) 物質Bの熱容量 C_B , ガラス転移温度 T_g
- (例2) 定圧熱容量 C_p , i 番目の物質の分圧 P_i
- (9) ベクトルを表す文字はボールド体とする。物理量変数の場合には更にイタリック体とする。
- (例) 電界 E
- (10) 数のべき乗の大きさを示す, n (ナノ), m (ミリ), k (キロ), などは一般に小文字で記す。ただし, テラを示す“T”やギガを示す“G”など大文字で記す場合もあり, 注意すること。本執筆要項末尾の付録2を参照のこと。
- (11) 単位記号の大文字, 小文字は注意する。「2.8 単位記号と物理量の表示法」を参照のこと
- (12) 図中のパラメータ量の表し方は, コロン(:)を使用して“Surface resistivity R : 10⁵ Ω cm”, あるいは接頭語を用いて“Surface resistivity R : 1.0 kΩ m”の様に記載する。物理量名称“Surface resistivity”は省略しても良い。また, 量記号を定義していない場合は量記号を省略しても良い。
- 軸ラベルを無次元化する表記法では, “ R /(10⁵ Ω·cm):1.0”, あるいは接頭語を用いて“ R /(kΩ·m):1.0”の様に記載する。理解を容易にするため「物理名称」を付記して“Surface resistivity, R /(10⁵ Ω·cm):1.0”としても良い。
- ただし, 「物理名称, 記号: 数値 単位記号」表記あるいは「物理名称, 量記号/単位記号: 数値」表記は, 論文内でどちらかに統一すること(混同は避ける)。
- (13) 2語以上の用語は最初のみ大文字とする。
- (14) 単位は国際単位系 (SI) の単位 (SI 単位) を採用する。
- (15) 1頁に一つずつ記載する(印刷時の劣化を防止するため, 大きめの図・表とする)。ファイル形式はjpg, tiff, pdfを推奨する。



3.2 表の書き方

以下の注意に従って、対応の表を本文中に作成する。

- (1) 表は全て英文とする。アメリカ英語の綴りを採用する。
- (2) 本文中での記載の仕方は Table 1 などと記載する。
- (3) 文字・単位などは、基本的に図面の書き方に準ずる（図面中を表中に置き換える）。
- (4) 表の説明文（タイトルなど）は文章スタイル（sentence capitalization style）に従い、最初の単語の頭文字のみ大文字として本文末にまとめて記載する。なお出版時には、表の上部に掲載される。
- (5) 表は基本的には横線のみで記載し、更に不要な横罫線はできるだけ削除する（例参照）。

Table 1 Optimum toner charge-to-mass ratio for three kinds of photoconductors.

Material	Capacity ($\mu\text{F/m}^2$)	Charge-to-mass ratio q/m ($\mu\text{C/g}$)		
		No background noise	Image density	Optimum range
Se	0.7	10-30	≤ 13	10-30
OPC	1.4	6-35	≤ 22	6-22
a-Si	8.9	3-38	≤ 53	3-38

4. 参考文献の書き方

参考文献には、一つの文献に対して一つの番号のみを付与する。このため、著者名が同じ複数の文献番号を扱う場合にも別々の文献番号を付与する。参考文献は全てアメリカ英語で記載する。アメリカ英語の単語・用法などに関しては「ロングマン現代アメリカ英語辞典」などを参照されたい。

日本語の文献で正式英文名（題名、雑誌名、出版社名、など）が併記されている場合は、その英語名を用いる。正式でない英文名や日本語のみの文献では、ローマ字（ヘボン式）にて記載する。ローマ字の後に英語翻訳（論文名、講演名、書籍名、発明の名称、など）を記載する場合には、鍵括弧 [] で続けて記載する。また、日本語文献である事を明記するため、参考文献の最後に [in Japanese] を付記する。日本語文献を日本語のみで記載することは認められない（必ず英語化する）。

この日本語文献の英語化の基本原則ルールを以下に示す。

- (1) 雑誌の論文名は、論文の最初の頁に日本語と英語が併記されていれば、その英語名称を論文名として記載

する。英語名が無ければ、日本語をローマ字に変換する。ローマ字の後には、翻訳英語を鍵括弧 [] で続けて記載する。

- (2) 雑誌名については、表紙・背表紙あるいは奥付（“SIST 07:2010 学術雑誌の発行と構成 2. 用語の意味”を参照）に英語が併記されていれば、それを転記する。英語名が併記されていない場合は、表紙或いは奥付に記載されているローマ字名を記載する。それもない場合は、日本語の読みをローマ字（ヘボン式）に変換して記載する。雑誌名は英語翻訳しない。
- (3) 単行本については、書名は表紙あるいは奥付に英語名が併記してあれば、それを転記する。無い場合には雑誌の論文名の場合と同様に、書名の日本語の読みをローマ字に変換して記載すると共に、引き続き翻訳名を鍵括弧 [] で記載する。
- (4) 発行元名については、原則、出版元に確認（ウェブサイトの閲覧・確認などを含む）し、各社が定める欧文名称を使用する（各社で、固有名詞化している可能性があるため、独自の判断で出版者名を記載してはならない）。定めた名称がない場合にはローマ字化を行う。日本特許の出願人についても同様に英語化を行う。
- (5) 会議録および発明の名称などについては、上記 (1) から (4) に準拠して記載する。
- (6) 日本画像学会発行の学会誌「電子写真」および「電子写真学会誌」の正式英文雑誌名は“Electrography”と記載する。また、日本画像学会誌は“Journal of the Imaging Society of Japan”と記載する。さらに、発行機関名として電子写真学会および日本画像学会に対しては、それぞれ“The Society of Electrography of Japan”および“The Imaging Society of Japan”と記載する。
- (7) なお、参考文献のタイピング時の留意点を以下に記載するので、注意すること。

※タイピング時の体裁（原則ルール）：

- (a) 一般的な記号（コンマ、ピリオド、コロン、セミコロン、疑問符、感嘆符）は、その前にはスペースを入れず、後に半角スペースを1個入れる。ただし、コンマまたはピリオドと、後括弧または後引用符が続く場合は、その間には半角スペースを設けない（例：「,」の様に記載する）。
- (b) 特種な記号（スラッシュ、ハイフン、エヌダッシュ、エムダッシュ）の場合は、原則として前後にスペースを設けない。範囲を示す時はハイフン（1/4長さ）ではなく、エヌダッシュ（1/2長さ）を用いる。（例）エヌダッシュ “pp. 15–23” ハイフン “multi-function”
- (c) 丸括弧、かぎ括弧、引用符、などは外側に半角スペースを1個入れ、内側はスペース無しとする。
- (d) 日付を記載する場合は、YYYY-MM-DD とする。
- (e) 著者名はファーストネーム、ミドルネーム、ファミリーネームの順に記載し、ファーストネームとミドルネームは、イニシャル+ピリオドで記載する。ピリオドの後には半角スペースを入れる。
（例）R. M. Schaffert（正） R.M.Schafert（誤）
- (f) 複数の著者名の英文表記では、“○、◆、and △”のように、最終著者の前に“コンマ”に続けて“and”を挿入する。ただし、2人の場合には、“○ and ◆”のように“コンマ”は入れない。著者全員の名前を記載する。
- (g) 論文名、講演名、および発明の名称は、原則として最初の単語の頭文字のみ大文字とする文章スタイル（sentence capitalization style）にて記載する。規格文書およびウェブサイトの題名も文章スタイルに準じる。
- (h) 書籍名、雑誌名、および会議名は、各単語の頭文字のみ大文字とする見出しスタイル（headline capitalization style）にて記載する。

参考文献の具体的な記載例と注意点を以下に示す。なお、参考文献の分類は、“SIST 02-2007 参考文献の書き方”の定義に従って分類した。また、参考文献リストの一部は“SIST 02-2007”から転用させていただいた。

4.1 学術雑誌および学術的雑誌（学会誌、研究紀要・技報、論文集、技術報告書、ほか）などの印刷雑誌

（例）(1) 基本形：

K. Nakajima, “Current bubble jet technology,” *Journal of the Imaging Society of Japan*, **41**, pp. 159-166 (2002) [in Japanese].

(2) 論文名に副題がある場合：

Y. Toko and I. Amemiya, “2nd Generation of e-paper: Looking back and forecast of e-paper,” *Journal of the Imaging Society of Japan*, **57**, pp. 516-524 (2018) [in Japanese].

(3) 頁が各号で通して付けられている（号が変わると1頁に戻る）雑誌の場合：

T. Miyauchi, J. Nakyama, and N. Fujiwara, “Special issue on materials technology: Brake performance of cast iron composite brakes containing alumina forms,” *RTRI Report*, **26** (12), pp. 39-44 (2012) [in Japanese].

(4) 印刷前の状態の場合：

K. Suzuki and K. Imano, “Examination of lamb waves distribution in the glass using sensitive tint method,” *Journal*

of the Acoustical Society of Japan, **76**, in press (2020) [in Japanese].

【記載上の注意点】

書誌事項「著者名, “論文名: 副題,” 雑誌名, **巻番号** (号番号), 頁 (初めと終わり記載) (発行年) .」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,) にて区切り英文で記載する. 副題および号番号は必要に応じて記載する.

- (a) 論文名は半角のダブルクォーテーション「論文名」の間に, 文章スタイル (sentence capitalization style) にて記載する.
副題が有れば論文名の直後に半角コロン (:) を付け, 半角スペースを空けて副題を記載する. 副題の最初の文字は大文字で記載する.
また, 特集記事である事を明記する場合は, “特集表題: 論文名” の様に記載する.
- (b) 学会誌名は印刷雑誌名に従う.
- (c) 学会誌の巻数 (Vol.) および号数 (No.) の記載については, 以下の通りとする.
 - (i) 頁が巻毎に通しで付けられている雑誌 (号に関係ない):
巻数 (Vol.) の数字のみをボールド体にて記載する (例: Vol. 41, No. 2 ならば “**41**” と記す).
 - (ii) 頁が各号で通して付けられている雑誌 (号が変わると 1 頁に戻る):
“**41** (2)” の様に巻 (Vol.) と号数 (No.) の両方を記載する. 巻数 (Vol.) の数字はボールド体にて記載し, () 付き号数 (No.) の数字はボールド体にしない.
 - (iii) 号のみの雑誌:
“(2)” の様に () 付きで号数のみを記載する. 数字はボールド体にしない.
- (d) 論文の頁数は最初と最後の頁番号をエヌダッシュにて結び, 「pp.」(単一頁の場合は「p.」) に続けて, 半角スペースを設けて記載する.
- (e) 発行年は頁数の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(発行年)」内に半角数字で記載する.
- (f) 文献の最後は半角ピリオド「.」を付す.
- (g) 掲載受理された後, 印刷前の状態で巻番号および頁番号が未定の場合は, 掲載雑誌名の後に “in press” を付記する. 掲載年が明らかな場合は “(発行年)” を続けて記載する.

4.2 電子ジャーナル

(例) (5) 基本形 (印刷雑誌スタイル+DOI) :

K. Nakajima, “Current bubble jet technology,” Journal of the Imaging Society of Japan, **41**, pp. 159-166 (2002), doi:10.11370/isj.41.159 [in Japanese].

(6) 「巻・号」はあるが通し頁番号がない PDF 版の場合 (論文番号を使用) :

M. Saito and Y. Tagawa, “Lift force acting on a levitating drop over a moving wall,” Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineering (JSME), **85** (825), 15-00059, pp.1-12 (2015), doi:10.1299/transjsme.15-00059.

(7) 頁付がない HTML 版で URL 付きの場合 (論文番号を使用) :

S. A. Mabon, T. Misteli, “Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo,” PLOS Biology, **3**, e374, p. 1 (2005). <https://doi.org/10.1371/journal.pbio.0030374>, (accessed 2019-06-26).

(8) 早期公開の場合 (出版前は URL でアクセスできるが, 出版後は DOI からのアクセスとなる) :

D. Palani and R. Manchanda, “Effects of heptanol on neurogenic contractions of vas deferens: A comparative study of stimulation frequency in guinea-pig and rat,” The Japanese Journal of Physiology, Advance Publication (2005), doi:10.2170/jjphysiol.RP001205.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjphysiol/advpub/0/advpub_0_0512170019/_pdf/-char/ja, (accessed 2020-05-12).

(9) 日本語しかない文献の場合 (へボン式にてローマ字化+[英語訳]) :

M. Ninomiya and K. Daimon, “EA-Eco tona no kaihatsu [Development of EA-Eco toner],” 2008 Nendo Bijinesu Kiki Kanren Gijutsu Chosa Hokokusho, Japan Business Machine and Information System Industries Association (JBIMIA), V-2, pp.1-5 (2009). https://gijutsu.jbmia.or.jp/rep_res/2008/5_2ecotoner.pdf, (accessed 2020-05-12).

【記載上の注意】

雑誌と同様に, 書誌事項「著者名, “論文名,” 雑誌名, **巻番号** (号番号), 論文番号, 頁 (初めと終わり記載) (発行年), DOI.」をこの順にコンマ (,) にて区切り, 英文で記載する. 注記事項として「URL, (アクセス日).」を DOI の次のピリオド (.) に続けて記載する. 日本語文献の場合は[in Japanese]を付す. 各項目の記述上の注意事項は, 先述した例に準ずる.

- (a) 印刷雑誌と電子雑誌の両方の国際標準逐次刊行物番号 ISSN (international standard serial number)がある場合は, 最後にデジタルオブジェクト識別子 DOI (digital object identifier)を付けることで電子雑誌を参照している事になるので, 必ず DOI を記載する. ただし, 入手先の URL に DOI が含まれる場合は, DOI または URL のいずれかを削除する.
- (b) 号番号の記載は印刷雑誌の場合に準じる.

- (c) 論文番号があれば記載する。
- (d) 電子雑誌のみの場合には、PDF 版と HTML 版の 2 種類がある。PDF 版では文献単位での頁付になっている。この場合は頁数の表記は最初を 1 頁とし、最後を“x” 頁目として、“pp. 1-x” の様に記載する。HTML 版では頁と言う概念が無いので全体で 1 頁となる。この場合は“p. 1” と記載する。
- (e) 入手先として URL を記載した場合は、URL の次をコンマ (,) にて区切り、必ず入手日を“(accessed 20XX-MM-DD)” のように記載する。
- (f) 早期公開制度を用いて入手した論文は巻・号および頁も確定していないので、雑誌名の後に、“Advance Publication” と記載した後、DOI を必ず記載する。DOI の次にピリオド (.) を付記する。
- (g) 論文名が日本語しかない場合はローマ字 (ヘボン式) にて記載し、[] 付きで英語訳を付ける。

4.3 プレプリント

(例) (10) 基本形：

Y. Suenaga, T. Nagase, and H. Naito, “Interpretation of the modulus spectra of organic field-effect transistors with electrode overlap and peripheral regions: Determination of the electronic properties of the gate insulator and organic semiconductor,” arXiv.org, 2001.03957, pp. 1-16 (2020). <https://arxiv.org/abs/2001.03957>, (accessed 2020-09-23).

(11) DOI が有る場合：

M. Cobb, “The prehistory of biology preprints: A forgotten experiment from the 1960s,” peerj.com, 3174v1, pp. 1-20 (2017), doi: 10.7287/peerj.preprints.3174v1. <https://peerj.com/preprints/3174v1>, (accessed 2020-09-25).

【記載上の注意】

書誌事項「著者名, “プレプリント名,” 出版者, プレプリント番号, 頁 (初めと終わり記載) (発行年), DOI.」をこの順にコンマ (,) にて区切り、英文で記載する。注記事項として「URL, (アクセス日).」を DOI の次のピリオド (.) に続けて記載する。日本語文献の場合は[in Japanese]を付す。各項目の記述上の注意事項は、先述した印刷雑誌および電子ジャーナルの例に準ずる。

- (a) 電子ジャーナルに準拠した扱いとする。
- (b) プレプリント・サーバーがある場合には、その名称 (上記例では arXiv.org もしくは peerj.com) を出版者として記述する。
- (c) プレプリント番号 (上記例：2001.03957 もしくは 3174v1) を記載する。
- (d) DOI がある場合は必ず記載する。ただし、入手先の URL に DOI が含まれる場合は、DOI または URL の何れかを削除する。
- (e) プレプリントは雑誌に掲載されている場合があるので、その場合は雑誌として参考文献を記載する。

4.4 単行本などの出版物

(例) (12) 基本形：

R. M. Schaffert, “Electrophotography,” Second Edition, Focal Press (1975), 989 p.

(13) 編者の場合：

Edited by E. Inoue and S. Kikuchi, “Insyu Kogaku,” Kyoritsu Shuppan (1975), pp. 5-10 [in Japanese].

(14) 日本語の書籍 (ヘボン式にてローマ字化+[英語訳])：

H. Shibata and K. Omura, “Peparesu Jidai no Kami no Kachi o Shiru: Yomikaki Medea no Ninchi Kagaku [The Value of Paper in the Paperless Era: Cognitive Science of the Media for Reading and Writing],” SANNON University Publications Department (2018), 261 p. [in Japanese].

【記載上の注意】

書誌事項「著者名, “出版物名,” 版表示, 出版地, 出版社名 (発行年), 総頁数または参照頁 (初めと終わり記載), (シリーズ名) .」をこの順にコンマ (,) にて区切り、英文で記載する。各項目の記述上の注意事項は、先述した例に準ずる。

- (a) 版数は第 2 版以降の場合に記載し、初版では省略する。
- (b) 発行年の記載は出版社名の後に半角スペースを空け、半角括弧「(発行年)」内に半角数字で記載する。
- (c) 総頁数は“989 p.” の様に、“p.” の前に総頁数の数値を“p.” との間に半角スペースを設けて記載する。
- (d) 参照頁は“pp. 5-10” のように記載し、単一頁の場合は“p. 10” のように記載する (ただし、ピリオドの後は半角スペースを設ける)。
- (e) 日本語の出版物名はローマ字 (ヘボン式) で記載し、ローマ字の後に続けて英語翻訳を鍵括弧 [] で記載しても良い。

4.5 単行本中の一部分 (論文, ほか)

(例) (15) 基本形 (副題付きの場合)：

D. Kaiser, “Making tools travel: Pedagogy and the transfer of skills in postwar theoretical physics,” *Pedagogy and the Practice of Science*, edited by D. Kaiser, MIT Press (2005), pp. 41-74.

【記載上の注意】

書誌事項「著者名，“章の見だしまは論文名，”書籍名，編集者名，版表示，出版地，出版社名（発行年），参照頁（初めと終わり記載），（シリーズ名）」をこの順にコンマ（，）にて区切り，英文で記載する。各項目の記述上の注意事項は，先述した例に準ずる。

4.6 学術会議予稿集（論文集）など

(例) (16) 基本形（会議名に開催機関名が含まれている＋講演番号付き）：

Y. Harada, “Measurement of viscosity process of ink droplets landed on media,” Proceedings of the 123rd Annual Conference of the Imaging Society of Japan (Imaging Conference Japan 2019), IJ2-03, pp. 39-42 [in Japanese].

(17) 開催機関名が会議名に含まれていない場合：

N. Nagayama, N. Nakamura, and M. Yokoyama, “Pixel image formation on a multi-layered organic film installed with pixel-like floating electrodes,” Proceeding of the International Conference on Digital Printing Technologies (NIP20), Society for Imaging Science and Technology (2004), pp. 543-546.

【記載上の注意】

書誌事項「著者名，“講演題名，”会議名または会議録名（会議略称），（会議開催地），会議開催機関（開催年），講演番号，頁（初めと終わり記載）」をこの順にコンマ（，）にて区切り記載する。各項目の記述上の注意事項は，先述した「学術雑誌および学術的出版物など」に準ずる。

- (a) 会議の予稿集（論文集）である事を示すため，“Proceedings of 会議名”を用いる。ただし，要旨集の場合は，“Abstracts of 会議名”を用いる。
- (b) 会議名の略称は半角括弧「(会議略称)」内に記載する。
- (c) 会議名に会議開催機関名や開催年が含まれる場合は，続けて記述する会議開催機関名や（開催年）を省略する。
- (d) 会議名に会議開催機関名のみが含まれる場合には，開催年の記載は会議開催機関名の後に半角スペースを空け，半角括弧「(開催年)」内に半角数字で記載する。
- (e) 講演番号があれば記載する。
- (f) 予稿集（論文集）としての書名は記載しない。

4.7 特許

(例) (18) 米国公開特許の場合：

W. J. Nowak, J. A. Alvarez, R. A. Clark, M. F. Zona, C. Liu, and P. J. McConville (Xerox Corporation), “Electrostatic 3-D printer controlling layer topography using aerosol applicator,” United States Patent Application Publication, US 2018-0361661 A1 (2018), 36 p.

(19) 米国公告特許の場合：

J. R. Ireland (Xerox Corporation), “System and apparatus for evaluating inkjet performance and alignment in a direct-to-object printer,” United States Patent, US 10,155,376 B1 (2018), 15 p.

(20) 日本公告特許の場合：

M. Muraki and T. Ohama (Brother Industries, Ltd.), “Gazou kiroku souchi,” Japan Patent, JP 6390777 B2 (2018), 19 p. [in Japanese].

【記載上の注意】

書誌事項「発明者名（出願人），“発明の名称，”国名特許，公開特許番号（公開年）または登録特許番号（登録年），参照頁または総頁数（言語の表示）」をこの順にコンマ（，）にて区切り記載する。各項目の記述上の注意事項は，先述した例に準ずる。

- (a) 発明者名は著者名と同様に全員の名前を，ファーストネーム，ミドルネーム，ファミリーネームの順に記載し，ファーストネームとミドルネームは共にイニシャル＋ピリオドで記載する。ピリオドの後は半角スペースを設ける。
- (b) 出願人名は各社が定める欧文名称を使用する。日本特許の場合，出願人名に定めた欧文名称がない場合にはローマ字化（ヘボン式）を行う。
- (c) 日本語の発明の名称はローマ字（ヘボン式）で記載する。英語に翻訳する場合はローマ字に続けて鍵括弧 [] に記載する。
- (d) 原則として公開番号もしくは特許番号で記載し，公開番号などのハイフンは半角文字「-」で記載する。
- (e) 公開特許番号および登録特許番号は，「国名コード（アルファベット2文字）＋特許番号（公開特許番号または登録特許番号）＋特許種別コード（各国によってコードの意味が異なる：日本・米国では，公開特許は“A”，登録特許は“B”で表される）」から構成されている。特許コード，特許番号，特許種別コードは，半角スペースでそれぞれ区切る。

(例) US 2018-0361661 A1, US 10,155,376 B1, JP 6390777 B2 など

- (f) 日本の公開特許番号については，昭和の場合は Sxx-xxxxxx, 平成の場合は Hxx-xxxxxx, 2000 年以降

は 20xx-xxxxxx などと表記する。

4.8 規格文書

(例) (20) 日本工業規格の場合：

JIS Z 9095: 2011, “Graphical symbols--safety signs--safety way guidance systems (SWGS)- Phosphorescence type,” Japanese Standards Association, 36 p. [in Japanese].”

(21) ISO 規格の場合：

ISO-13856-1: 2001, “Safety of machinery – pressure-sensitive devices – part 1: General principles for design and testing of pressure-sensitive mats and pressure-sensitive floors,” ISO/TC 199 Safety of machinery, 42 p.

【記載上の注意】

書誌事項「規格番号：発行年，“規格の名称，”発行機関，参照頁または総頁数（言語の表示）.」の順番で記載する。各項目の記述上の注意事項は，先述した例に準ずる。

(a) 規格番号はその規格の番号体系に従い，規格資料に記載されている通りに記述する。

(b) 規格番号の後に参照した規格の発行年を記述する。発行年としては制定年（改定された場合は改正年）を用いる。

4.9 ウェブ サイトなどの電子情報

(例) (22) 基本形：

The Imaging Society of Japan, “How to post to the ‘Journal of the Imaging Society of Japan.’” [http://www.isj-imaging.org/ISJ_journal/e-submission\(e\).html](http://www.isj-imaging.org/ISJ_journal/e-submission(e).html), (accessed 2020-05-10).

【記載上の注意】

書誌事項「発行元，“ウェブサイトの題名.”」をこの順に，英語で記載する。続けて注記事項「URL,（アクセス日）」を記載する。各項目の記載上の注意事項は，先述した例に準じる。

(a) ウェブサイト上に記載されている情報を掲載する場合には，その情報の真実性に十分注意してとりあつかう。また，記載の際には URL と共に，参照した日付を（ ）内に併記する。用語解説などのウェブサイトは参考文献として 取り扱ってはならない。

5. 著者略歴

著者全員の略歴を記載し，写真（電子データ可）を添付する。略歴の記載要領は，以下のとおりとする。

(例) 田中 弘治

1982 年 □□大学工学部（電子工学科）を卒業。

1984 年 □□大学大学院理学研究科（物理学専攻）を修了。

1985 年 □□□□メーカを経て□□□□株式会社に入社。□□□□記録技術の新技术開発を経て，1990 年より □□□□技術の開発を担当。□□□□技術，計測システムなどの開発に従事。現在，□□□□技術を含むプリント 技術全般にわたる戦略技術開発を担当。

（注記：学会などで受賞歴がある場合は，該当年の受賞内容を記載してください）

6. 投稿方法

投稿方法は下記のウェブ投稿システム*を通しての電子投稿を原則とし，その環境にない場合は紙出力物による投稿を認める。具体的な操作方法は「著者操作マニュアル」**を参照のこと。投稿に際しては投稿システムの「初回投稿」から投稿を行う。

本文は「1. 投稿形式」（p.2）に記載の URL よりテンプレートをダウンロードし，MS-Word を用いて作成する（以下「本文テキスト」とする）。図および表については印刷時の劣化を防止するため，高解像度で作成・提出する。1 頁に一つの図あるいは表を記載すること（以下「図・表」とする）。「図・表」はファイル形式として jpg, tiff, pdf 形式を推奨する。なお MS-Word に貼り付けても良い。その場合も 1 頁に一つとし，大きなサイズで貼り付けること。

作成した「本文テキスト」と「図・表」は，それぞれ投稿システムにおける「原稿ファイル」および「図・表」としてアップロードすることができる。

なお「本文テキスト」と「図・表」のすべてを一つの MS-Word ファイルにまとめ，投稿システムにおける「原稿ファイル」としてアップロードすることを推奨する。

*投稿システムログイン頁：<https://www.editorialmanager.com/jisj/default.aspx>

**著者操作マニュアル：<https://www.editorialmanager.com/jisj/download.aspx?scheme=7&id=18>

紙出力物による投稿の場合の原稿送付先

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内

日本画像学会事務局気付 日本画像学会誌編集委員長 宛

(日本画像学会 TEL : 03-3373-9576 FAX : 03-3372-4414)

7. 修正原稿の再提出の方法

査読後、内容修正を加えた修正原稿は投稿システム内の「修正投稿」から投稿を行う。修正投稿に際して必要なファイルは、修正された「原稿ファイル」(必要に応じて「図・表」と査読意見に対する修正点などを記載した「回答ファイル」である。具体的な手順は著者操作マニュアルを参照のこと。

初回投稿と同様に「原稿ファイル」は、「本文テキスト」および「図・表」を一つの MS-Word ファイルとしてまとめることを推奨する。

紙出力による投稿の場合、同書類を事務局編集委員会宛に郵送する。

8. 掲載可となった後の編集工程

掲載可となった原稿に関しては、基本的に既にアップロードされている原稿を用いて出版工程に進む。図の解像度や出版上の微修正などに関して編集委員からの問合せがある場合がある。また、印刷所から著者校正用のゲラ刷りが届くため、内容の最終確認を著者の責任にて行う。著者校正の際、原則として投稿原稿を添付せずに校正刷りのみを送付するため、投稿原稿は著者が必ず保管しそれを用いて校正を行う。

9. 掲載料と論文別刷り代金

(論文掲載料)

論文掲載料は1頁 5000 円とする。冊子体のカラー印刷代金は1頁 30 000 円とし、編集委員会が必要と認めるものに限り無料とする。論文掲載ウェブサイト*** (J-STAGE) に掲載される PDF ファイルに関しては無料でカラー版が利用できる。

*** 科学技術振興機構 (JST) 「科学技術情報発信・流通総合システム」 (J-STAGE)
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/isj/-char/ja/>

(別刷り代金)

著者のうち希望者は別刷りを購入できるものとし、別刷り代金は以下のように 50 部を単位とする。(掲載料は 2019 年 4 月 1 日以降の投稿から、別刷り代金は 2020 年 7 月 1 日以降の受付から料金改定)

頁数	50 部	100 部	150 部	200 部	250 部
5	12 500	24 000	35 600	47 100	58 600
6	14 600	28 200	41 900	55 500	69 100
7	16 700	32 400	48 100	63 900	79 600
8	18 800	36 600	54 400	72 200	90 000
9	20 900	40 800	60 700	80 600	100 000
10	23 100	45 000	67 000	89 000	111 000

算出式 : 別刷り代金 = [(4000 × m - 2000) × 頁数 + 2000 × m] × 1.0476

単位 : 円 (100 円未満は切り捨て)

ここで、m = 1 + (部数 - 50) / 100, 係数1.0476 は消費税増税分に相当する。

以上

付録 1：英文における各種記号およびその入力方法

記号	名称	名称 (英語)	使い方・注意点	Unicode
—	エムダッシュ	Em dash	括弧のように対で囲んで、説明や副題などを表す。	2014
-	エヌダッシュ	En dash	数値の範囲を示す。エムダッシュの1/2の長さ	2013
-	ハイフン	Hyphen	語をつなげたり、単語の音節を分離するために用いる。エムダッシュの1/4の長さ	002D
+	正符号, 加算記号	Plus sign	正符号, および足し算の演算子	002B
-	負符号, 減算記号	Minus sign	負符号, 引き算の演算子	2212
×	乗算記号	Multiplication sign	掛け算の演算子	00D7
·	乗算記号	Middle dot	同上	00B7
°	度	Degree sign	度を示す記号	00B0
°C	セルシウス度	Degree Celsius	セルシウス度を示す記号	脚注参照 [‡]

1. 使用上の注意

- ・正負の記号のような単項演算子は、記号と数字の間はスペースを設けない。スラッシュ、エムダッシュ、エヌダッシュ、ハイフンもこれに準ずる。
- ・四則演算記号のような二項演算子は、演算子の両側は半角スペースを開ける。この二項演算子には、等号、不等号、なども含まれる。
- ・各記号の使用にあたっては、上記一覧表の「使い方・注意点」を参考に、適した記号を用いること。例えば数値の範囲や減算記号にハイフン“-”を用いてはならない。
- ・英文でこれらの記号やギリシア文字などに、日本語全角文字を用いてはならない。(例) °C, μ , Σ
- ・セルシウス度の表記に小文字アルファベット「オー」の上付き“°”と大文字アルファベット「シー」「C」を組み合わせて用いてもならない。

2. 入力方法 (MS-Word) : 下記いずれかの方法により入力する

- (1) 「挿入」タブ → 「記号と特殊文字」メニュー → 「その他記号」コマンド; 表示された画面の「文字コード」欄に上記Unicodeを入力する。
- (2) 直接入力 (英語入力) モードにて上記Unicodeを入力した後、Altキーと“X”キーを同時に押す。

[‡] (1) 上記に従い degree sign “°”を入力した後、半角大文字で C をタイプする (この段階では、まだ degree sign “°”と C の間が間延びして “° C” となっている)。
 (2) 次に degree sign と C を選択して、フォントを Times New Roman に変更する (両者がくっついた “°C” となる)。

付録 2 : べき乗の接頭語およびギリシア文字一覧表

1. べき乗の接頭語

乗数	接頭語	読み方	記号	乗数	接頭語	読み方	記号
24	yotta	ヨタ	Y	-1	deci	デシ	d
21	zetta	ゼタ	Z	-2	centi	センチ	c
18	exa	エクサ	E	-3	milli	ミリ	m
15	peta	ペタ	P	-6	micro	マイクロ	m
12	tera	テラ	T	-9	nano	ナノ	n
9	giga	ギガ	G	-12	pico	ピコ	p
6	mega	メガ	M	-15	femto	フェムト	f
3	kilo	キロ	k	-18	atto	アト	a
2	hecto	ヘクト	h	-21	zepto	ゼプト	z
1	deca	デカ	da	-24	yocto	ヨクト	y

2. ギリシア文字一覧

(1) アルファベット文字との対比表

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z
α	β	χ	δ	ε	φ	γ	η	ι	ϕ	κ	λ	μ	ν	ο	π	θ	ρ	σ	τ	υ	ϖ	ω	ξ	ψ	ζ
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
A	B	X	Δ	E	Φ	Γ	H	I	Θ	K	Λ	M	N	O	Π	Θ	P	Σ	T	Υ	ς	Ω	Ξ	Ψ	Z

(2) 読み方 (ギリシア文字の順番で記載)

α	alpha	アルファ	ν	nu	ニュー
β	beta	ベータ	ξ	xi	クシー
γ	gamma	ガンマ	ο	omicron	オミクロン
δ	delta	デルタ	π	pi	パイ
ε	epsilon	イプシロン	ρ	rho	ロー
ζ	zeta	ゼータ	σ	sigma	シグマ
η	eta	エータ	τ	tau	タウ
θ	theta	シータ	υ	upsilon	ウプシロン
ι	iota	イオータ	φ	phi	ファイ
κ	kappa	カッパ	χ	chi	カイ
λ	lambda	ラムダ	ψ	psi	プサイ
μ	mu	ミュー	ω	omega	オメガ

φ : 一筆書きのファイ, ϖ : シンボル用のギリシア文字